日赤病院におけるDMATのありかた

- 全国日赤病院（92施設）のうち、災害拠点病院の指定を受けている58施設（基幹10、地域48）に対するアンケート調査（さいたま赤十字病院、清水らによる）
- 回答38施設（回収率64％）

- 日赤はDMATに参加すべきか
  - 参加すべき：24（63％）
  - 不参加：3（8％）
  - 不明：11（29％）
    - 条件によるか：検討する：7
- 参加の余地あり：31/38（81％）
- DMAT研修を受講希望：30（79％）

- 自県でDMATが立ち上がっている県：19
  - DMAT訓練に参加：4（21％）
  - 訓練受講を希望：17（89％）
  - 日赤はDMATに参加すべき：14（74％）
  - （条件を含めれば）参加すべき：19（100％）
- まだ立ち上がっていない県：19
  - 立ち上げ会議に参加：1（5％）
  - 不参加：6（32％）
  - 会議がない：12（63％）
  - 訓練受講を希望：13（69％）
  - 日赤はDMATに参加すべき：10（52％）

- 救命救急センター施設：20
  - DMAT研修受講を希望：17（85％）
  - 日赤はDMATに参加すべき：14（70％）
- 非救命救急センター：18
  - DMAT研修受講を希望：13（72％）
  - 日赤はDMATに参加すべき：10（56％）

第11回 日本集団災害医学会総会
2006. 2.10 in Sendai W2-6

日赤病院におけるDMATのあり方

災害拠点病院の指定を受けている
日赤病院へのアンケート結果から

1. さいたま赤十字病院救命救急センター
2. 武蔵野赤十字病院救命救急センター

清水 敬樹[1]、田口 茂正[1]、清田 和也[1]、
勝見 敦[2]、須崎 紳一郎[2]

はじめに

DMATに対する日赤の対応

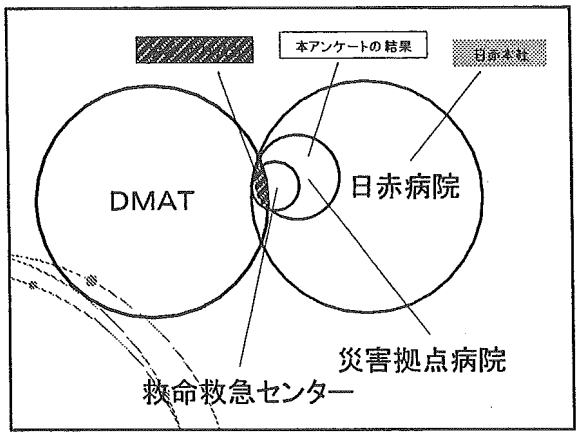
① 2005年2月17日

1. 災害救助法第1条に「日本赤十字社」と明記されており、災害救助は通常業務である
2. 日本赤十字社法第3条「日赤の自主性の尊重」が損なわれ得る等を理由に日赤はDMATに参加しない。

②2005年3月3日 第10回日本集団災害医学会
⇒日赤救命救急センター有志 ⇒ 日赤院長連盟 ⇒ 本社

③2005年7月19日 DMAT研修への参加、資格取得は問題ない。
⇒ DMATとの現実的な関わり方は不明で混乱、困惑

④以降適宜、本社へ ⇒ 協議継続中との回答



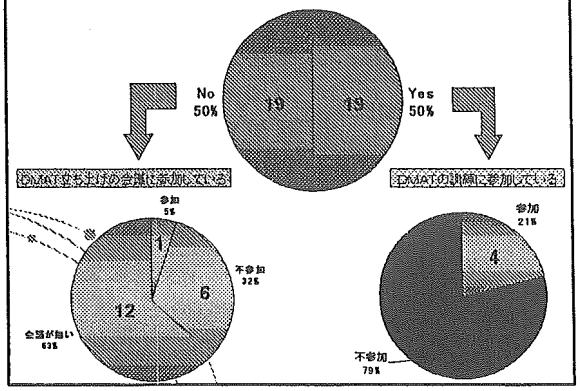
方法および対象

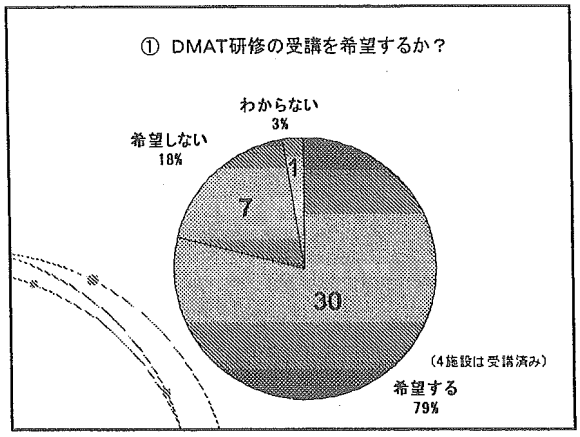
日本全国の赤十字病院の中で災害拠点病院の指定を受けている58病院（基幹災害医療センター10施設、地域災害医療センター48施設）にアンケートを実施した。あくまでも災害担当部門の責任医を対象としたもので事務系を含めたその施設の総意とは考えていない。現場の医師がどのように考えているかを調査の目的とした。40施設から返答があったが、アンケートの有効な記載は38施設で、回収率は64%であった。

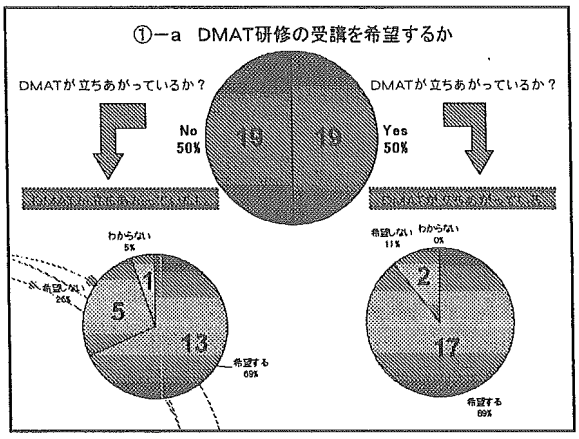
アンケートの項目

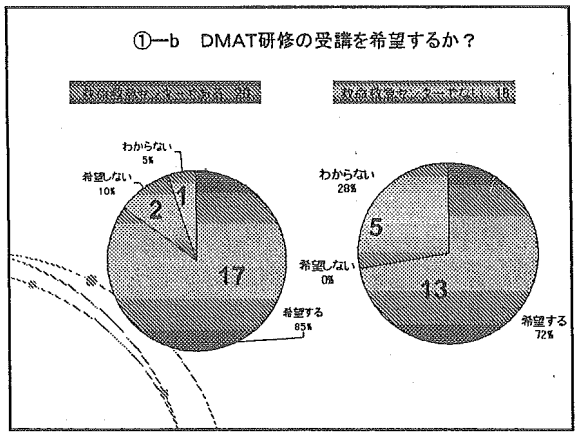
1. 基幹災害医療センターか地域災害医療センターであるか？
2. 救命救急センターであるか否か？
3. 担当地域ではDMATが立ち上がっているか？
4. 立ち上がっていればその訓練に参加しているか？
5. 立ち上がっていなければ、立ち上げの会議に参加しているか？
6. DMAT研修への参加希望があるか？
7. 日赤はDMATへ参加すべきか？
8. その理由
9. DMATへの参加に否定的である場合に、何か条件を満たせば参加も検討するか？
10. その条件とは？
11. 日赤とDMATはどのように連携すべきか？

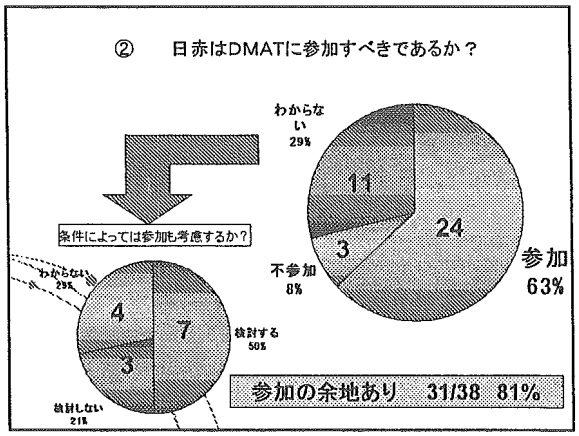
38施設の中で、自県のDMATが既に立ちあがっているか？

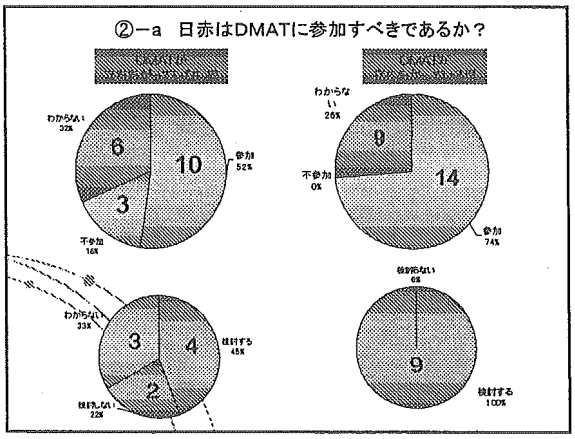


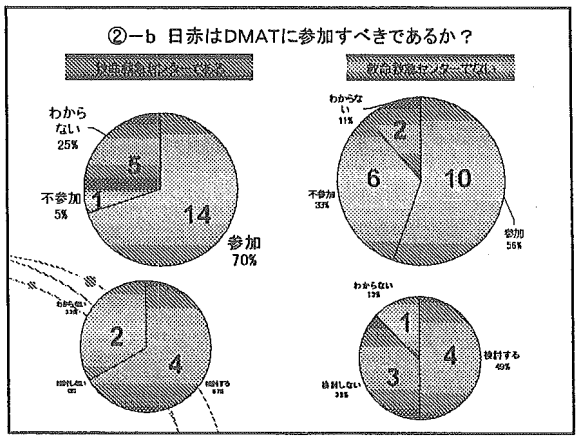

① DMAT研修の受講を希望するか？
わからない
3%
希望しない
18%
1
7
30
（4施設は受講済み）
希望する
79%


①−a DMATが立ちあがっているか？
DMATが立ちあがっているか？
DMATが立ちあがっているか？
No
50%
19
19
Yes
50%
わからない
5%
希望しない
26%
1
5
13
希望する
69%
希望しない
11%
わからない
0%
2
17
希望する
89%


①−b DMAT研修の受講を希望するか？
わからない
5%
希望しない
10%
2
1
17
希望する
85%
わからない
28%
5
希望しない
0%
13
希望する
72%


② 日赤はDMATに参加すべきであるか？
わからない
29%
11
24
3
不参加
8%
参加
63%
条件によっては参加も考慮するか？
わからない
29%
4
7
3
検討する
50%
検討しない
21%
参加の余地あり 31/38 81%


②−a 日赤はDMATに参加すべきであるか？
わからない
32%
6
10
参加
52%
3
不参加
16%
わからない
26%
9
不参加
0%
14
参加
74%
わからない
33%
3
4
検討する
45%
2
検討しない
22%
検討しない
0%
9
検討する
100%

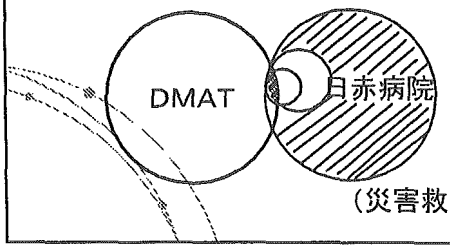

②−b 日赤はDMATに参加すべきであるか？
わからない
25%
5
不参加
5%
1
14
参加
70%
わからない
11%
2
6
10
不参加
37%
参加
56%
2
4
1
4
3
検討する
40%
検討しない
33%

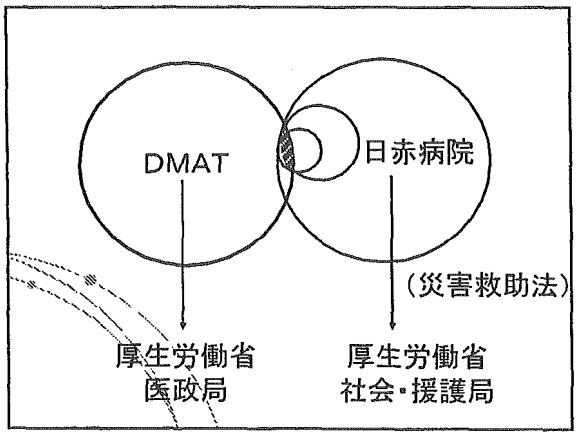
アンケート結果を踏まえた現場の意向

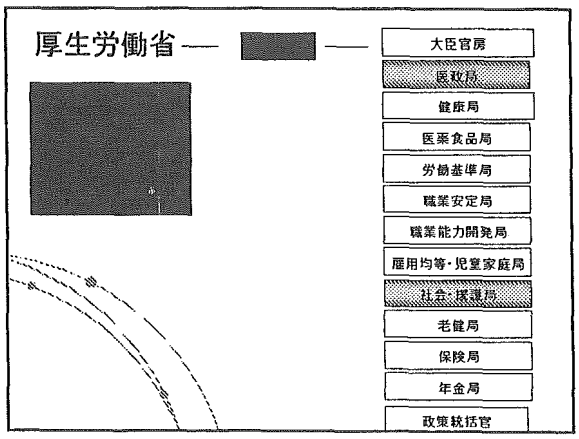
・80%がDMAT受講を希望
・60%がDMATに参加すべき
・本社の許可があれば80%が参加すべき
・施設により温度差があった

・基幹災害医療センター、救命救急センター
⇒参加可能な日赤病院は日赤救護班とは別に
DMATチームを持つべき

日赤本社の意向
・災害救助法を遵守すべき→ 大前提！
・①余力のある日赤病院はDMATに参加
・②DMATの研修、訓練を受けてDMATと同様のシステムで参画。しかしチーム名は日赤救護班として出動







結語

① 80%がDMAT受講を希望
② 60%がDMATに参加すべき
⇒ 本社の許可があれば80%が参加すべき
③ 体力のある日赤病院は参加すべき

④ 災害救助法の遵守が大前提
⑤ 厚生労働省の横の連携のツメが甘いのでは
⇒ 積極的に働きかける
⑥ DMATの概念、システムを十分に評価。講習を受講してDMATと一緒に日赤救護班として出動

平成 17 年 12 月 21 日資料

担当：布施明（川口市立医療センター）

平成 17 年度厚生労働科学研究事業

災害時医療体制の整備促進に関する研究

主任研究者；独立行政法人国立病院機構　災害医療センター　院長　辺見 弘

第 2 回研究班会議

平成 17 年度検討課題

I. DMAT 運用体制
3) 局地型災害対応 DMAT の運用（県レベル）

1　埼玉県における現状
　1.1　埼玉DMAT（埼玉県保健医療部医療整備課）
　　1.1.1　H17. 8 月～埼玉県災害拠点病院連絡協議会
　　1.1.1.1　H17. 9月～埼玉県災害拠点病院連絡協議会専門部会
　　1.1.2　H18 埼玉県DMAT運営委員会（仮称）設立
　　1.1.3　埼玉県DMAT：H18 年度発足予定
　1.2　「彩の国レスキュー隊改組」（埼玉県危機管理防災部消防防災課）
　　1.2.1　H17. 10 月彩の国レスキュー隊見直し検討委員会
　　1.2.1.1　H17. 11 月彩の国レスキュー隊見直し検討委員会作業部会
　　1.2.2　H18年度「（改組）彩の国レスキュー隊」（仮称）発足予定
2　検討課題
　2.1　地方自治体DMATのあり方：局地型
　　2.1.1　災害が拡大すれば局地型では対応できず、日本DMATに運用を拡大することも考えられるため、可能な限り日本DMAT活動計画に沿った形を取る→シームレス化
　　2.1.2　被災県となった場合の日本DMATの受入（ホスト）業務
　2.2　DMATチームの地方自治体での活用方法
　　2.2.1　より緩やかな出動基準
　　2.2.1.1　DMAT登録隊員、DMAT指定医療機関の確保
　　2.2.2　市町村消防本部における出動基準の統一化
　　2.2.3　（消防組織の広域化）
　2.3　市町村消防本部との現場活動連携
　　2.3.1　県レベルで救助、救急などの消防組織とDMATの合同訓練

日本DMAT隊員養成研修プログラム

2006. 4/9-4/12

月日	時間	プログラム	場所
第1日目	9:00 ～ 9:10 10分	開会式	災害医療センター
		開会挨拶	附属昭和の森看護学校
		※ 独立行政法人国立病院機構災害医療センター　院長　辺見 弘	3階 第6教室
		関係者挨拶	
		※ 厚生労働省　医政局指導課	
		講師・アドバイザー・事務局紹介	
	9:10 ～ 9:30 20分	講義 1「災害医療概論」	
		※講師：災害医療センター　辺見　弘	
	9:30 ～ 9:45 15分	講義 2「DMATの意義と本コースについて」	
		※講師：	
	9:45 ～ 10:00 15分	講義 3「災害時医療対応の原則」	
		※講師：	
	10:00 ～ 10:40 40分	講義 4「災害時の現場医療（3T；トリアージ、応急処置、搬送）」	
		※講師：	
	10:40 ～ 10:50 10分	休憩・移動	
	10:50 ～ 11:40 50分	講義 5「実習　災害現場での情報通信訓練」	災害医療センター
		※講師：	外来棟4階 研修室
	11:40 ～ 12:40 60分	昼食	
	12:40 ～ 14:25 105分	講義 6「シミュレーション設問1　近隣災害発生/DMAT派遣」（出動・指揮命令・安全・通信）	
		※講師：	
	14:25 ～ 14:45 20分	講義 7「東京消防庁災害現場活動とDMATとの連携について」	
		※講師：東京消防庁警防部	
	14:45 ～ 14:55 10分	休憩	
	14:55 ～ 16:35 100分	講義 8「シミュレーション設問2　近隣災害発生/DMAT現場医療活動」（3Ts）	
		※講師：	
	16:35 ～ 16:45 10分	休憩	
	16:45 ～ 17:00 15分	講義 9「トリアージタッグ記入法について」	
		※講師：	
	17:00 ～ 18:20 80分	講義 10「実習　災害現場での傷病者観察手順とトリアージ」（医師・看護師）	医師・看護師：
		※講師：	外来棟4階　研修室
		講義 10「実習　ロジスティックス　災害時の通信訓練」（調整員）	調整員：
		※講師：	看護学校3階 会議室
	18:20 ～ 18:40 20分	講義 11「東京DMATについて」	外来棟4階 研修室
		※ 講師：東京都福祉保健局医療政策部	

日本DMAT隊員養成研修プログラム

2006. 4/9-4/12

月日	時間	プログラム	場所
	8:30 ～ 8:40 10分	オリエンテーション	外来棟4階 研修室
	8:40 ～ 9:00 20分	講義 12「広域地震災害；遠隔地域医療支援」 ※講師：	
第2日目	9:00 ～ 10:40 100分	講義 13 「実習 シナリオ診療」（医師；現場救護所・看護師；トリアージ） ※講師（医師） ： ※講師（看護師）： 講義 13 「ワークショップ 災害時の看護師の役割」（看護師） ※講師（看護師）： 講義 13 「シミュレーション 遠隔地派遣のロジスティクス」（調整員） ※講師（調整員）：	医師：本館４階 第２会議室 看護師： 外来棟４階 研修室、第１会議室 調整員：看護学校３階 会議室
	10:40 ～ 10:50 10分	休憩	
	10:50 ～ 12:10 80分	講義 14「シミュレーション設問3 大地震発生/DMAT派遣」 ※講師：	外来棟４階 研修室
	12:10 ～ 13:10 60分	昼食 セミナー ※講師：	
	13:10 ～ 14:30 80分	講義 15 「シミュレーション設問4 広域災害時のDMAT活動」 ※講師：	
	14:30 ～ 14:40 10分	休憩	
	14:40 ～ 15:50 70分	試験 1 グループ 1：筆記試験	医師：本館４階 第２会議室
	15:50 ～ 17:00 70分	グループ 2：実技試験（医師：トリアージ・情報通信・シミュレーター） （看護師：トリアージ・情報通信） （調整員：情報通信・衛星電話） 試験 2 グループ 2：筆記試験 グループ 1：実技試験（医師：トリアージ・情報通信・シミュレーター） （看護師：トリアージ・情報通信） （調整員：情報通信・衛星電話）	看護師：外来棟４階 研修室 調整員：看護学校３階 会議室 筆記試験：看護学校２階 ２・３教室
	17:00 ～ 17:10 10分	休憩	
	17:10 ～ 17:30 20分	講義 16「厚生労働省のDMAT運用について」 ※ 講師：厚生労働省医政局指導課	看護学校3階 第6教室
	17:30 ～ 18:10 40分	講義 17「航空機内での医療」 ※講師：航空自衛隊機動衛生研究班	
	18:10 ～ 18:30 20分	講義 18-1「政府の広域航空搬送計画について（１）」 ※ 講師：内閣府（防災担当）	
	18:30 ～ 18:40 10分	質疑応答/講評 事務連絡	

日本DMAT隊員養成研修プログラム

2006. 4/9-4/12

月日	時　間	プ ロ グ ラ ム	場所
	8:30 ～ 8:40 10分	オリエンテーション	看護学校2階第2･3教室
	8:40 ～ 9:00 20分	講義 18-2「政府の広域航空搬送計画について（２）」	受講生は着替えを済ませて、
		※ 講師：	8:30に集合下さい
第	9:00 ～ 10:30 90分	講義 19「シミュレーション設問5　広域搬送拠点空港」	外来棟４階 研修室
3		※ 講師：	
日	10:30 ～ 10:40 10分	休憩	
目	10:40 ～ 12:00 80分	講義 20 「実習　シナリオ診療（災害拠点病院、SCU)」（医師・看護師）	医師、看護師：外来棟４階 研修室
		※ 講師：	
		講義 20 「実習　SCU設営（ＳＣＵでの業務調整員の役割）」（調整員）	調整員：
		※講師：	東京消防庁第八消防方面訓練場
	12:00 ～ 13:00 60分	昼食/移動	
	13:00 ～ 13:30 30分	オリエンテーション	東京消防庁第八消防方面訓練場
	13:30 ～ 14:45 75分	実践訓練１ （ Confined Space Medicine ：現場トリアージ）	
		※講師（ＣＳＭ）：	
		：東京消防庁第八消防方面本部消防救助機動部隊	
		※講師（現場トリアージ）：	
	14:45 ～ 14:55 10分	訓練準備	
	14:55 ～ 16:10 75分	実践訓練２ （ Confined Space Medicine ：現場トリアージ）	
		※講師：（実践訓練１と同じ）	
	16:10 ～ 17:00 50分	撤収/移動/休憩	
	17:00 ～ 17:30 30分	実践訓練反省会/質疑応答/講評	外来棟４階 研修室
		事務連絡	

日本DMAT隊員養成研修プログラム

2006. 4/9-4/12

月日	時　間	プ　ロ　グ　ラ　ム	場所
第4日目	自衛隊航空機による患者搬送訓練		
	8:00 ～ 8:20 20分	移動	外来棟4階 研修室集合
	8:20 ～ 8:50 30分	ＳＣＵ設営・オリエンテーション	バスにて移動
	8:50 ～ 10:30 100分	実践訓練　３　(Staging Care Unit　：　航空機搬送)	陸上自衛隊立川駐屯地
		※講師（ＳＣＵ）：	
		※講師（航空機搬送）：	
	10:20 ～ 10:30 10分	訓練準備（ＳＣＵチーム）	
	10:30 ～ 12:10 100分	実践訓練　４　(Staging Care Unit　：　航空機搬送)	
		※講師：（実践訓練３と同じ）	
	12:10 ～ 13:00 50分	撤収/移動/休憩	
	13:00 ～ 13:30 30分	実践訓練反省会/質疑応答/講評	外来棟４階 研修室
		修了式	

H18年度　日本DMAT隊員養成研修日程(案)

開催回	自		至	備考
第12回	平成18年　4月　9日(日)	～	平成18年　4月12日(水)	
第13回	平成18年　5月14日(日)	～	平成18年　5月17日(水)	
第14回	平成18年　6月11日(日)	～	平成18年　6月14日(水)	
第15回	平成18年　7月　9日(日)	～	平成18年　7月12日(水)	
第16回	平成18年　9月10日(日)	～	平成18年　9月13日(水)	
第17回	平成18年10月　9日(月)	～	平成18年10月12日(木)	
第18回	平成18年11月12日(日)	～	平成18年11月15日(水)	
第19回	平成19年　1月14日(日)	～	平成19年　1月17日(水)	
第20回	平成19年　2月12日(月)	～	平成19年　2月15日(木)	
第21回	平成19年　3月11日(日)	～	平成19年　3月14日(水)	

医療計画おける災害医療について

基本方針
- 災害時おける医療提携体制について記載
- 住民の目線にたった記載
- 地域防災計画との整合性

災害医療計画への記載項目
- 想定される脅威：どのような災害が起こるか
  - ➢ その地域で大量の傷病者が発生すると想定される災害について記載する。
  - ➢ 震災、風水害、列車事故、テロなど
- 対応の基本：どのように対応するか
  - ➢ 災害時の被災傷病者への医療提供
    - ✧ 災害現場
      - ● トリアージ、緊急治療、がれきの下の医療等を行う。
      - ● 派遣されたＤＭＡＴが担う。
    - ✧ 近隣の医療機関
      - ● 応急処置を中心とした医療提供
      - ● 処置が困難な患者をトリアージして災害拠点病院へ後方搬送
      - ● 医療機関の職員、派遣されたＤＭＡＴが担う。
    - ✧ 災害拠点病院
      - ● 被災地内の重症患者を集約
      - ● 可能な限り根治的な治療を行う。
      - ● 被災地外での診療が必要な患者をトリアージする。
      - ● 病院の職員、派遣されたＤＭＡＴが担う。
    - ✧ 広域医療搬送
      - ● 災害拠点病院から被災地外での診療が必要な患者を広域搬送拠点に集約する。
      - ● 広域搬送医療拠点（ステージングケアユニット：ＳＣＵ）が設けられ、必要な処置、トリアージが行われる。
      - ● 航空機で被災地外へ搬送され、
      - ● 派遣されたＤＭＡＴが担う。
    - ✧ 避難住民への医療提供
      - ● 避難所で生活する被災住民への医療を提供する。
      - ● 派遣された救護班、ボランティアの救護班が担う。

- 人的被害の規模別の対応
  - 中規模な人的被害
    - 必要な対応
      - 現場への医療支援
    - 例：羽越線事故
  - 大規模な人的被害
    - 必要な対応
      - 現場への医療支援
      - 近隣の病院支援
      - 患者の近隣地域への後方搬送（ヘリコプター中心）
      - 被災地への医療支援
    - 例：尼崎列車事故、中越地震
  - 甚大な人的被害
    - 必要な対応
      - 現場への医療支援
      - 近隣の病院支援
      - 患者の近隣地域への後方搬送（ヘリコプター中心）
      - 患者の遠隔地域への後方搬送（飛行機も使用）
      - 被災地への医療支援
    - 例：阪神淡路大震災、想定される東海地震など
- 震災時における安心な病院の確保：災害への事前準備がしっかりしているか
  - 病院の耐震化の計画
  - 病院のライフライン確保の計画
- 医療資機材の備蓄の確保：災害への事前準備がしっかりしているか
  - 災害時初動に必要な医療資機材の備蓄計画
- 災害時に中軸的な役割を担う病院の整備：災害時適切な医療が受けられるか
  - 災害拠点病院の指定状況
    - 要件
    - 救急医療体制との整合性
  - 災害拠点病院の整備計画
    - ハード面（ヘリポート、備蓄倉庫など）の整備計画
    - ソフト面（マニュアル、訓練、人材養成）の整備計画
    - 活動に必要な医療資機材の整備・備蓄計画
- 災害急性期に機動性を持って働く医療従事者の確保：災害に巻き込まれたとき助けに来てくれるか
  - ＤＭＡＴの整備、研修・訓練計画

- ＤＭＡＴ指定医療機関との協定
- 局地型、広域災害時の運用計画

- 広域医療搬送計画は整備されているか：災害時、被害を受けていない地域での医療へアクセスできるか
  - 広域医療搬送について
    - 広域医療搬送拠点指定
    - 広域医療搬送拠点へのアクセス手段確保の計画
    - ＳＣＵの機材は整備
    - 訓練の実施
- 自治体間の相互応援計画：他の都道府県から適切な応援が得られるか
  - 広域災害救急医療情報システムの整備
  - 相互応援協定の締結
- ＮＢＣテロへの対応計画：テロに巻き込まれても大丈夫か
  - ハード面の対応準備計画
  - 従事者の確保・研修計画

ステージ	概念	指標	代替指標		出典	評価のポイント
手　当	どのくらい多いのか	集団災害の発生率		集団災害の発生数/対象人口	*都道府県調査*	総合的な取り組み
	どのくらい健康に留意しているか	応急手当受講率		受講者数／対象人口	救急救助の現況	患者教育の普及
	どのくらい健康に留意しているか	バイスタンダーによる心肺蘇生法実施率		バイスタンダーによる心肺蘇生法実施数／対象人口	救急救助の現況	患者教育の普及
	事前準備がしっかりしているか	病院耐震化率		耐震化された病院数／病院数	*都道府県調査*	地域の取組み
⇩	事前準備がしっかりしているか	医療資機材の備蓄		医療資機材備蓄量/災害想定上の必要医療資機材量		
傷病者発生	災害のときに、どこに行ったらよいか	医療機能情報公開率		インターネットに医療情報を掲載している医療機関数／医療機関数	*都道府県調査*	選択の支援
	災害に巻き込まれたとき助けに来てくれるか	DMAT（災害医療チーム）配備割合		配備DMAT数参加数／対象人口	*都道府県調査*	地域の取組み
	災害時適切な医療が受けられるか	災害拠点病院の割合		災害拠点病院のある二次医療圏数／二次医療圏	*都道府県調査*	選択の支援 医療機能の評価
	災害時適切な医療が受けられるか	防災マニュアル策定している災害拠点病院割合		防災マニュアル策定災害拠点病院数／災害拠点病院数	*都道府県調査*	地域の取組み
	災害時適切な医療が受けられるか	災害訓練実施災害拠点病院割合		大量患者受入訓練を実施している災害拠点病院数／災害拠点病院数	*都道府県調査*	地域の取組み
	災害時、被害を受けていない地域での医療へアクセスできるか	広域医療搬送拠点の有無		広域医療班層拠点整備の有無	*都道府県調査*	
	テロに巻き込まれても大丈夫か	NBC対応可能な医療従事者数の割合	NBCテロ研修終了者数の割合	NBCテロ研修終了者数/対象人口		

平成１７年度総合防災訓練における

広域医療搬送実働訓練反省検討会

日時：平成１７年１０月２０日（木）午後２：００～

場所：東京ガーデンパレス

平成１７年度総合防災訓練における　広域医療搬送実働訓練反省検討会

○日　時　　平成１７年１０月２０日（木）午前１０時００分～１２時２０分

○場　所　　東京ガーデンパレス「華」の間

○出席者

災害医療センター	辺見　弘
災害医療センター	大友康裕
災害医療センター	本間正人
日本医科大学千葉北総病院	松本　尚
川口市立医療センター	布施　明
大阪府立千里救命救急センター	大津谷耕一
兵庫県災害医療センター	鎌田八重子
大阪府医療対策課	徳本史郎
災害医療センター	高野博子
災害医療センター	佐藤和彦
厚生労働省医政局指導課	鈴木章記
厚生労働省医政局指導課	城　正弘
厚生労働省医政局指導課	近藤久禎
内閣府（防災担当）	岩下啓希
内閣府（防災担当）	判田乾一
内閣府（防災担当）	鈴木　崇
防衛庁運用局運用課国民保護・災害対策室	田實博幸
防衛庁運用局運用課国民保護・災害対策室	前川紘一郎
防衛庁運用局衛生官付	高城　亮
防衛庁陸上幕僚監部防衛部運用課	泉　善之
防衛庁海上幕僚監部防衛部運用課	中野公一
防衛庁航空幕僚監部防衛部運用課	桐川太郎
総務庁消防庁応急対策室	林田淳司
千葉県総務部消防地震法災課	上村順一
千葉県健康福祉部医療整備課	猿田
東京都医療政策部	小室
東京都医療政策部救急災害医療課	府馬
災害医療センター	楠　孝司
災害医療センター	服部真一

災害時医療体制の整備促進に関する研究

主任研究者；独立行政法人国立病院機構　災害医療センター　院長　辺見 弘

日時：平成 17 年 10 月 20 日（木）　10:00〜12:00

会場：東京ガーデンパレス　華の間

小委員会

「平成 17 年度総合防災訓練における広域医療搬送実動訓練反省検討会」

1. 厚生労働省医政局指導課ご挨拶
2. 主任研究者ご挨拶
3. 訓練概要総括

　　内閣府災害対策担当

　　厚生労働省医政局指導課

　　海上自衛隊

　　陸上自衛隊

　　航空自衛隊

　　千葉県

休憩

4. ステージングケアユニット訓練報告

　　日本医科大学千葉北総病院

5. 自衛隊機機内医療活動訓練報告

立川駐屯地（CH-47）	国立病院機構災害医療センター
伊丹空港（C-1）	大阪府立千里救命救急センター
関西空港（C-1）	兵庫県災害医療センター、大阪府

6. 検討課題の整理

以上

平成１７年１０月　日

首都直下型地震対応広域医療搬送実動訓練実施結果（案）

１　平成１６年度広域医療搬送実動訓練との相違

相違項目	平成１６年度	平成１７年度
対象地震	東海地震	首都直下型地震
地震発生	事前予知	突然発生
地震発生前準備	有り	無し
医療スタッフ	救護班(注)	ＤＭＡＴ
ＳＣＵ設置場所	飛行場に設営したテント	飛行場の格納庫
ＳＣＵから自衛隊機までの患者搬送手段	レスキューカー、徒手	レスキューカー、車両（救急車、トラック）

(注)平成１６年９月１日時点で、ＤＭＡＴは未整備である。

２　成果

(1)　突然発生型地震でも、現行の体制で広域医療搬送を実施できることを実証できた。

(2)　今回の訓練では、海上自衛隊下総航空基地の格納庫にＳＣＵを設置し検証を行ったが、格納庫は駐機場所に近く風雨の影響を受けず、電気・水の供給も可能であることから、他の所要等との調整によりＳＣＵ設置場所として格納庫を使用できる場合、テントよりも効果的に活動できることが判明した。

３　改善・検討事項

(1)　突然発生型地震の場合、地震発生から８時間以内に、重篤患者を被災地外病院へ収容することは非常に困難であった。

(2)　現行の国・被災都道府県・被災県内市町村の役割分担について、ＳＣＵ及び域内搬送は、被災都道府県の負担を減らす方向で見直すべきであるという意見があった。

(3)　連絡員を派遣していない被災地外広域搬送拠点と、被災地内広域搬送拠点との間では直接連絡することができなかったことから、広域医療搬送における連絡体制を見直す必要があるという意見があった。

４　次年度への提言

(1)　準備開始時期が遅かったため、訓練準備のための各機関の計画立案及び相互調整に支障を来したとの指摘があったことから、次年度は十分な準備期間を設定する必要がある。

(2)　今年度の静岡県の工夫を参考に、次年度の訓練は広域医療搬送体制の検証だけでなく、訓練効果を上げるための状況設定（例：ＳＣＵ受入能力を大幅に上回る模擬患者を用意する）についても考慮する必要がある。

５　その他要望事項

(1)　数多くのＤＭＡＴ隊員に広域医療搬送を経験させるため、広域医療搬送実動訓練の年２回実施要望があった。

(2)　国土交通省に対し、訓練参加機関の高速（有料）道路通行料の減免要望があった。

表　H17.9.1 広域医療搬送実働訓練時間経過

訓　練　項　目	予定時刻	実際時刻	経過時間
地震発生	7:10	7:10	0:00
DMAT参集要請	8:10	8:10	1:00
DMAT域外拠点参集完了	9:30	9:30	2:20
自衛隊機域外拠点(伊丹・関空・立川)出発	全機10:00	伊丹10:03 関空10:20 立川10:10	伊丹2:53 関空3:10 立川3:00
DMAT域内拠点(下総航空基地)集結完了	11:20	11:40	4:30
域内搬送用ヘリ出発(SCU→千葉市)	11:51	11:45	4:35
重篤患者のSCU受入開始	13:17	13:22	6:12
重篤患者の搬出作業開始	14:10	14:20	7:10
自衛隊機域内拠点(下総航空基地)出発	伊丹14:50 関空15:20 立川15:30	伊丹15:06 関空15:26 立川15:35	伊丹7:56 関空8:16 立川8:25
自衛隊機域外拠点(伊丹・関空・立川)到着	伊丹16:10 関空16:40 立川15:55	伊丹16:04 関空16:42 立川16:00	伊丹8:54 関空9:32 立川8:50